

職場における交通安全指導 Part.15

トラック事故はこうして起きる

～ 過去のまとめ ～

(指導のポイント6)

～ ミニバイクへの対応 ～

ミニバイクは、手軽に乗れるということで高校生から家庭の主婦、さらにはご高齢の方まで幅広く利用されており、トラック事故の相手方となる危険が年々高まっています。ミニバイクを運転する人の中には、トラックの運転者に比べ、技量が劣り、ルールも十分に理解していない人も見受けられます。

例えば、

一方通行道路を逆行してくる

キープレフトを守らない

急に左右に膨らみ運転をする

といった走り方をしがちですので、十分な注意が必要です。

なお、ミニバイクは広い範囲にわたって周囲の状況を見ないで走行することが多く、トラックに気付いていないこともあるので、バイクの動きには十分注意するとともに、ボディが小さいために他車の死角に入りやすいので、その存在には常に気を配ることが重要です。



まれで、そのほとんどが「直進二輪車の接近を知っていた」のに衝突する事故です。

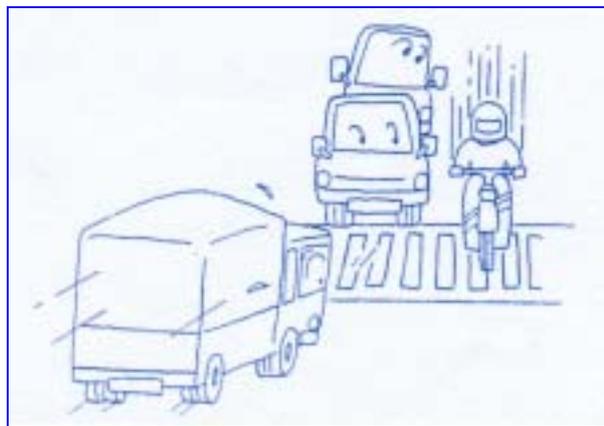
原因は、二輪車のスピードを過少評価し「二輪車が近づくまでに右折を完了できるだろう」と見込判断した結果の右直事故です。

サンキュー事故

対向直進車が、渋滞しているため停止し、道を譲ってくれたので、右折しようとして停止車の死角から飛び出してきた二輪車と衝突する事故です。

「停止車の向こうに二輪車がいりのでは」と考え、自分の目で安全を確認したうえで、右折することが基本です。

なお、右折時に、対向直進車だけに気を取られて右折していくと、交差点を出る手前の横断歩道上の歩行者や自転車を見落とすケースもあります。また、右折していく道路に駐車車両、自転車等の有無をチェックしておくことも大切です。



(指導のポイント7)

～ 右折時、対向二輪車への対応 ～

一般に「右直事故」と呼ばれている事故のパターンは、交差点で右折するトラックと対向してくる直進車、特に直進二輪車との衝突事故をいいます。

その代表的なパターンは次の通りです。

二輪車のスピードを過少評価

直進二輪車に気付かなかった、というケースは、

(指導のポイント8)

～ 左折時の巻き込み事故への対応 ～

大型車が左折する際には、内輪差の関係で前輪の軌跡よりも後輪が内側を通るため、左側方を走行しているバイクや自転車を巻き込むという事故に注意しなければなりません。

また、この内輪差のため狭い交差点では、大型車は一度右へ膨らんで左折しなければなりません。後続するバイク等は、これを大型車が右へ曲がるものと思い、安易に左側に入り込み巻き込まれる事故も多くあります。

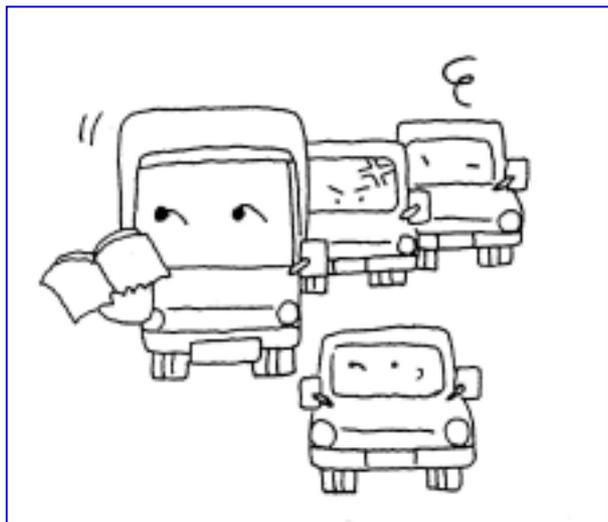
左折するときは、交差点の手前からミラーを何度も見て、左側の後方にバイクや自転車、歩行者がいないか確認し、必要に応じて一旦停止するか、あるいは最徐行しながら、進行して行くことが基本です。



(指導のポイント9)

～ 渋滞時の追突事故への対応 ～

運転には適度な緊張感が必要ですが、渋滞等でスピードが遅くなると、緊張感も緩みがちになります。「これぐらいのスピードなら、いつでもすぐ止まれる」という考えが、脇見をすることになります。例えば、伝票を整理したり、新聞を読んだり、車外の看板等を見て、前車が停止したのに気付くのが遅れ、追突するケースがよくあります。渋滞時は特に、前の車が急な減速や停止することがありますので、油断しないで前の車のブレーキランプに注意し、車間距離を確保することが基本です。



(指導のポイント10)

～ 夜間走行時の追突事故への対応 ～

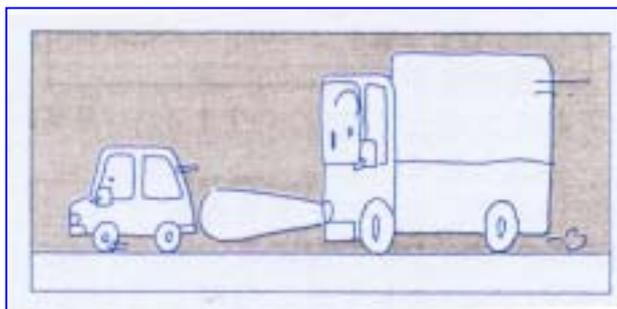
夜間は視界が悪くなるだけでなく、対向車のライトに眩惑されるなど、さまざまな危険要因が増加します。

それだけに、夜間の運転は慎重に行う必要があります。

特に、夜間は追突事故が多く発生しています。

これは、運転者が前方に車が走っていると、ヘッドライトで照らせるところまで近づいて走ろうとします。夜間は、こうして走ったほうが走り易いわけですが、その結果、無意識のうちに車間距離を詰めて走ってしまうことになります。こうした状態で走っているときに、前方に異変があると避けようがありません。

従って、夜間は意識して車間距離を十分とり、速度を控え目にするのが大切です。



(指導のポイント11)

～ 後退時のバック事故への対応 ～

車をバックさせる場合は、視界が極端に狭くなり、危険がいっぱいです。「後ろに何も無いと思いバック」あるいは「まだ後ろに余裕があるだろうと思いバック」したところ事故になったケースが割合に多いのです。

バック事故を防止するために、後退する前に必ず降車して後方の安全を確認することです。

特に、トラック等の大型車では死角が大きくなるので十分注意しなければなりません。「誰もいないだろう、なにもないだろう」と安易に考えて確認を怠ったり、ミラーだけに頼ったバック走行は絶対につつしむことです。

